

関連項目：教育活動プラン④

異年齢交流を通してコミュニケーション能力を育成する

目的

本校の児童に必要なのは、コミュニケーション能力です。そこで、児童が主体となって考え、活躍できる場を異年齢交流の中で設定し、児童のコミュニケーション能力を育成することにしました。

内容

● 児童会活動から広げる ～全校遊び～

児童会が中心となって、全校遊びを企画・実践した。この活動の目的は、①ゲームを通して全校生が楽しくふれあうこと、②ルールを守ること、③児童会役員のリーダー性を育てることである。

児童会で話し合い、全校朝会で『じゃんけん列車』を行うことになった。教職員も一緒になりゲームを楽しんだ。児童からは「全校生でこんなゲームをするのは初めてだ。楽しかった。もう一度したい。」という感想が聞かれた。

2回目の全校遊びは、5年生が国語科での話し合い活動を活かして、『ハッピーおじよもんタイム（清掃のない昼休み）』に『しっぽとりゲーム』を行った。児童会役員だけでなく、他の学年や委員会等からも全校遊びの企画を提案し実践することで、高学年児童の自主性・リーダー性を育てる機会となった。



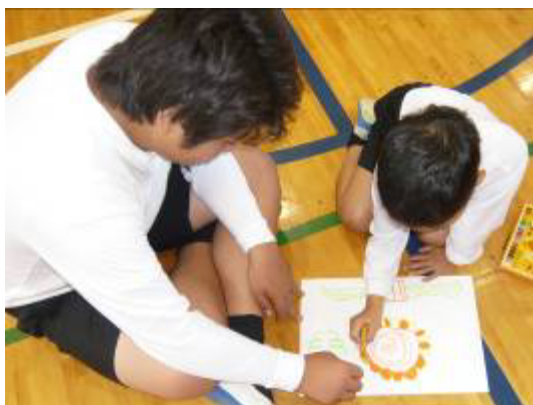
【全校生で『じゃんけん列車』】

● 学校のリーダーとして ～縦割り班活動～

本校では1～6年生の数名が1つのグループになり活動する『縦割り班』を4月に結成し、5月の1年生を迎える活動としての『校内オリエンテーション』や毎月の『ボランティア清掃』を行っている。

今年は、6年生のリーダーシップを発揮することを目的として、各縦割り班で6年生が下級生のことを考えた遊びを企画・実践した。6年の児童からは「1年生のことを考えて、ルールを作ったが、実際にしてみるとうまくいかないことがあった。次にするときには、ルールを変えるといい。」という感想があった。

● 一対一の関係を大切に ～ペア活動～



【言葉を使わず、2人で絵を描く】

本校のペア学年は1・6学年、2・5学年、3・4学年で構成し、『ペア給食』や『ペア読書』などの活動を行っている。今年度は、より一対一の人間関係を深め、コミュニケーション能力を高めることを目的として構成的グループエンカウンターショートエクササイズ『2人で描こう』を行った。これは、言葉を交わさずに相手の心を読み取って1つの絵を描く活動である。このような共同作業を通して、お互いの理解を深めることにつながった。児童からは「何も言わずに描くのは面白かったけれど、ペアの子が何を描きたいのか分からなかったのが難しかった。」という感想が聞かれた。

成果

こうした取組をすることで、コミュニケーション能力育成の基礎である「(異年齢の児童と)ふれあうことの楽しさ」を感じさせることができました。また、リーダー育成として上級生が「下級生のことを考えてゲームやルールを考えよう」、「みんなで仲を深めよう」と前向きに取り組む姿が見られたことも相手のことを考えて行動するコミュニケーション能力育成の基礎となりました。

今後は、教職員が「リーダー性のある児童」を育成するために、このような場を意図的に与え、児童に任せる機会を増やしていきます。